

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・梅雨に入っても気温が上昇しているため、冷たい商品の在庫を充実させている。また、ワンコインで買えるチキン祭りといったキャンペーンを実施しているが、大変好評である。
		家電量販店（経理担当）	お客様の様子	・客との会話で、徐々に景気が良くなっているとの話が多くなっている。
	やや良く なっている	一般小売店〔自転車〕（店長）	それ以外	・リサイクル品が今までと同様に売れているほか、新品の販売量も多くなっている。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	単価の動き	・高価格帯の業態で客の動きが出てきており、若干の客単価上昇につながっている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・近隣に複合商業施設がオープンしてからは、来客数が前年比で4%程度増えている。それに伴い、雑貨などの身の回り品や食料品の売上が伸びている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・客は、今までのように価格を優先的に判断材料とすることはない。特に肉などの生鮮品の場合は、商品に値打ちがあれば金額に関係なく購入がみられる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・食料品を中心に来客数が増加基調となりつつあり、販売点数も前年とほぼ同じ水準となっている。ただし、商品単価は前年よりも2～3%低下気味となっている。
		観光型旅館（団体役員）	来客数の動き	・ここ数か月は、入込客数が連続して増加している。
		旅行代理店（営業担当）	単価の動き	・夏休みの海外旅行の受注額が前年比で15%増加している。客が早めの予約に動いており、受注時期が早まっている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・問い合わせ件数が増えている。
	変わらない	一般小売店〔食料品〕（経営者）	販売量の動き	・例年、夏は商品が動く時期であるが、今年は出足が遅い。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・25日現在で、売上は全店舗で前年比3%の増加となっている。
		一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	販売量の動き	・6月と3月の売上前年比をみると、6月が101.6%、3月が113.8%となっている。今年に入って多少の変化があるものの、ここへ来て多少持ち直しており、比較的安定した状態で推移している。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	お客様の様子	・客の様子をみると悪くないものの、単価の高い商品の売行きが若干悪い。
一般小売店〔衣服〕（経営者）		販売量の動き	・前年と比べて売上は減少しているものの、来客数の大幅な落ち込みはなく、客単価の低下による影響が大きい。	
一般小売店〔野菜〕（店長）		販売量の動き	・今月に入って、取引先の飲食店では動きがますます悪くなっている。	
一般小売店〔カメラ〕（販売担当）		お客様の様子	・例年はボーナス支給を見込んで客の購買力が高まるが、今年は何の変化もみられない。今年のボーナス支給額は非常に高額と報じられているものの、それはごく一部の企業であり、中小企業などでは状況が異なる。	
百貨店（企画担当）		販売量の動き	・トレンド商材のワンピースの販売量は前年比40%増と好調であるが、Tシャツやニットなどの主力商材は軒並み前年割れとなっている。	
百貨店（経理担当）		販売量の動き	・梅雨に入っても雨の日が少なく、客が外出しやすい影響で、店頭売上が前年を上回る日が多い。また、中元の受注状況は早期割引もあって非常に良い。	
百貨店（営業担当）		単価の動き	・一部のブランドでは1000万円以上の時計なども出ているが、全体的には相変わらず100万円以上の受注が少ない状況である。	
百貨店（マネージャー）		販売量の動き	・百貨店を取り巻く環境は依然として厳しいものの、6月はギフトやクリアランスセールの前倒しにより、増収が確保できている。	

百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・中元商戦では前年とほぼ同じ売上を確保しているものの、受注の前倒しによる影響もあるため、好不調の判断が難しい。また、夏物商材のクリアランスセールも前倒し傾向となっており、全体的には前年の売上を確保している。
百貨店（売場担当）	来客数の動き	・クリアランスセールを含めて低価格品の動きが良いなど、顧客が価格に対してシビアになってきている。
百貨店（統括）	販売量の動き	・3か月前に比べると衣料品の動きが若干良いものの、住まい関連、食品が少し悪い。中元ギフトは受注が前倒し傾向となっており、前年比で若干プラスとなっている。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・梅雨入りしたものの、雨が少ないことから客足は比較的順調である。また、気温の急激な上昇に伴って飲料がかなり伸びているほか、酒類の売上も好調である。果物類も単価は安いものの、味が乗っていて値ごろ感もあることから、売上が伸びている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・月の中ごろには来客数の減少がみられたほか、客の間では食料品や身の回り品の節約志向が強くなり、単価も下落傾向が続いている。その反面、健康飲料などは高単価でも良い動きとなっている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・梅雨シーズンとしては雨が少ないものの、週末や夕方方に集中的に降ったため、影響を大きく受けている。
スーパー（広報担当）	販売量の動き	・季節商材は気温の影響を受けて動きが鈍い。父の日関連は販促の強化で目標を上回ったものの、そのほかは競合店の影響で来客数が伸びず苦戦した。特に食料品では、来客数は前年を上回ったものの、客単価が伸びていない。
コンビニ（マネージャー）	来客数の動き	・ここ数か月は来客数の伸びが前年比2けた台で推移し、客単価も今月は前年を上回っている。前年はたばこの値上げに伴う駆け込み需要があったことを考えると、今年はかなり好調である。 ・一般商品の買上個数が増えているほか、レジ前の小物などの衝動買いも増えている。6月は月前半から中旬まで気温が低めであったが、おにぎりやサンドイッチのほか、飲料やアイスといった気温が高い時に売れる商品も、来客数の伸びに伴って驚異的な伸びとなっている。
家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・エアコンなどの季節商品が動く時期であるが、気温が安定せず計画どおりに売れていない。客も慎重になっている。
乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新車ディーラーでは6、7月がキャンペーン月であるものの、来客数は例年の6割にとどまっている。
乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・新車の販売台数が依然として増えない。乗り換えよりも、点検して乗り続ける客が増えている。
その他専門店 [宝石]（経営者）	来客数の動き	・来客数は若干増えているものの、単価が伸びていないので、売上は大きく伸びていない。
その他専門店 [宝飾品]（販売担当）	単価の動き	・円安ユーロ高が続いているため、材料となる地金の単価が下がらない。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・年配客が多いため客足が天候に左右されやすいが、今月は雨が少なく来客数は例年並みとなっている。
スナック（経営者）	来客数の動き	・職場の異動で団体客の利用が多少増えているものの、大抵は1人当たりの金額を安く指定される。
スナック（経営者）	お客様の様子	・ランチの利用客は増える傾向にある一方、ディナー時の来客数はさほど変化していないことから、客単価にそれほどの動きはない。
観光型旅館（経営者）	お客様の様子	・客単価は上向いているものの、ガソリン価格の上昇による影響で来客数が減っている。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊はビジネス客を中心に好調を維持しており、客単価も若干であるが上昇傾向にある。一方、宴会場の利用については、会議利用は大幅に増加しているものの、宴会利用が経費削減を理由に極端に減少している。売上増に結びつくほどではないが、宴会場の室料収入が上昇しているため、全体の収益性は上がっている。

	都市型ホテル (マネージャー)	来客数の動き	・レストランの来客数は前年をやや上回っているものの、全体的にあまり変化はみられない。
	都市型ホテル (役員)	お客様の様子	・宿泊は、前月から急に勢いが弱くなっているものの、客単価は上昇傾向にある。宴会でも、特需で伸びた前年度末に匹敵するほど件数が伸びている。レストランは改装工事の影響で減収となっているものの、その影響を除けば来客数が伸びている。
	都市型ホテル (営業担当)	来客数の動き	・5月に続き、宿泊はビジネス客を中心に好調で、月末には大型団体の利用もあり前年を上回る勢いとなっている。一方で宴会は、一般宴会が件数、売上共に前年並みである反面、婚礼は新規来客数が少なく、利用組数も前年の半分となったことから、全体としてマイナスとなっている。
	旅行代理店(店長)	単価の動き	・ここ3か月は来客数、販売額共に減少傾向にあり、前年と比較しても落ち込んでいる。
	タクシー運転手	来客数の動き	・駅周辺で待っていても乗客が少ないほか、終電付近のピークとなる時間帯も、客の数はさほど多くない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・いわゆる流しによっても乗客は見つかるが、単価が低く、依然として公共交通機関を利用する客が多い。夜の祇園もまだまだ悪い状況である。
	タクシー会社 (経営者)	お客様の様子	・雨や暑さといった季節要因を差し引いても、繁華街での人出が非常に少ない。また、人出があっても電車のある時間に家へ帰る傾向が続いている。タクシーチケットの利用も非常に少ないなど、会社による節約ムードも続いている。
	通信会社(社員)	販売量の動き	・今年はオリンピックやサッカーワールドカップなどのイベントもないので、特需による加入者の増加がみられない。実績を前年と比較してもあまり変化がない。
	競輪場(職員)	単価の動き	・入場者数、平均購買単価共に、横ばい状態で変化がない。
	その他レジャー施設[イベントホール](職員)	お客様の様子	・催しの際の入場者数は、タレント次第で大きく増減している。企画会社もファンの囲い込みに色々な対策を行っているものの、全体的には横ばい傾向である。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・リピーターが中心であるため、客が少ない月の翌月は客が増えるなど、来客数が平均している。
	その他サービス[ビデオ・CDレンタル](エリア担当)	販売量の動き	・傾向は変わっておらず、映像や音楽の物販売上の落ち込みをレンタル売上でカバーしている。
	住宅販売会社(経営者)	単価の動き	・京都の商業地は価格が下落傾向にあり、動きが極めて少ない一方、住宅地の取引状況は堅調である。
	住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・新築マンションの販売状況が芳しくない。モデルルームへの来場者が減少しているほか、在庫も増加している。
	その他住宅[展示場](従業員)	来客数の動き	・住宅展示場の来場組数は横ばいが続いている一方、1年以内の建築計画者には減少傾向もみられる。
	その他住宅[情報誌](編集者)	来客数の動き	・昨年の秋以降低迷している新築マンションの販売状況は、ゴールデンウィークに一部回復の兆しがみえたものの、全体的には集客状況が悪い。市場では新規供給の増加と販売在庫が重なり、やや供給過多となっている。 ・客の間では新価格物件に対する様子見の傾向が続いている一方、割安感が出始めた一部の在庫物件は徐々に完売しつつあるなど、混とんとした状態となっている。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・売上前年比がここ半年で最も悪い。
	一般小売店[時計](経営者)	販売量の動き	・月前半は調子の良い動きとなったが、中旬ごろから年金問題や増税などのマイナス要因が重なり、出費を抑制する雰囲気が出てきた。結果的には、月前半の好調で何とかしのいだ状態である。

一般小売店〔精肉〕（管理担当）	販売量の動き	・中元商戦が始まっているにもかかわらず、例年よりも受注量が少ない。今年は早期注文を対象にした流通大手の動きが目立ち、客が迷うケースが増えている。割引競争となっているため、我々専門店は出方が難しい。
百貨店（売場主任）	単価の動き	・単価の高い重衣料が不調であるほか、単価の低い紳士用品でもまとめ買いが減っている。また、来客数が微減となるなかで、客単価にも数千円の低下がみられる。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・客との会話で、税金や節約に関する話がよく聞かれる。税負担が増えることで家計が厳しくなり、客1人当たりの購入額も減少してきている。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・今月30日からクリアランスセールが始まるため、例年以上に買い控えが起こっている。美術品や時計の購入までに時間が掛かるほか、購入を手控える客も増えてきている。その一方、7月から値上げをする輸入化粧品品の駆け込み需要が非常に増えている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・雨などの天候要因はあるものの、来客数の減少が売上に響いている。
スーパー（開発担当）	それ以外	・原油高の高騰に伴い、関連商品の値上げが起こっている。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客の間には必要なときに必要な物を買うという傾向がみられる。また、公共料金の支払いだけ、トイレに寄るだけといった、目的を果たすためだけに来店する傾向がみられ、客単価が伸びない。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・プレミアム商品の伸びにやや陰りが出てきている一方、低単価商品の売上が伸びてきたことで、客単価が低下傾向にある。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・飲料の売上は伸びたものの、弁当やサンドイッチなどの販売量が減少している。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・月の初めから婦人服のプレセールスを始めたところ、売上が良い店と悪い店に分かれている。プレセールスを早く始めた店は少し売れているが、遅かった店は売行きが悪い。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今年は例年以上にバーゲンセール待ちの動きが顕著にみられ、来客数が減少している。当社の客は年齢が高いため、年金問題の影響も少なからず出ている。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・今月は年金問題や住民税の増税により、買い控える客が多い。
乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・以前から付き合いのある客に変化はないが、新規の客が1～3月に比べて減少している。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・カ・ディーラーの動きは全国的に冷え込んでいる。特に大阪は冷え込みが激しく、来客数もかなり悪い状況である。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・連日暑い日が続いているにもかかわらず、夏物衣料の売行きが予想以上に悪い。季節商品以外についても、今月半ばから落ち込んできている。
住関連専門店（店長）	それ以外	・輸入品を扱っているが、為替レートが円安傾向で推移しているため販売価格が大きく跳ね上がり、売上に悪影響が出ている。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数の前年割れが続くなか、客単価でも前年割れが起こっている。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・客単価は上昇傾向にあるものの、来客数の動きが鈍くなってきており、売上全体は大きく変動していない。
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・国内旅行の受付件数は昨年を上回っているが、海外旅行は大きく下回っている。予約の間際化傾向が年々強まっており、客単価にも低下がみられる。
旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・夏休みの先行受注状況が悪く、特に7月の申込状況が国内旅行、海外旅行共に良くない。
タクシー運転手	お客様の様子	・月に1社は新しく免許を取得する会社がある。客の数は横ばいであるにもかかわらず、タクシーばかりが増えている。
タクシー運転手	来客数の動き	・梅雨入りしても今一つ雨が降らず、乗客の数が伸びない。
住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・販売物件数に過剰感が出てきている。

		住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・マンション販売率の悪化もさることながら、モデルルームへの来場数自体が大きく減っている。
		住宅販売会社 (総務担当)	販売量の動き	・チラシや広告、インターネットで集客を図っているものの、客の反応が鈍く、土地、建売共に販売が減少してきている。
	悪く なっている	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・販売量がかなり減少している。原油高や環境問題で自動車に乗らない人が増えており、その影響が出てきている。
		競輪場(職員)	単価の動き	・6月の客単価は14,907円と3月の19,346円よりも低下している。競走グレードの差があるため、場外発売の客単価をみても、6月は13,802円と3月の14,349円よりも低下がみられる。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	金属製品製造業 (管理担当)	受注価格や販売 価格の動き	・受注時点の鋼材価格が見積時点よりも高騰しているため、利益が目減りしている。ただし、受注量が増えた影響で売上は過去最高となっている。
		電気機械器具製 造業(企画担 当)	受注量や販売量 の動き	・新しく開拓したユーザーが量産を開始している。
		広告代理店(営 業担当)	受注量や販売量 の動き	・新たなテレビ番組の広告出稿が目立ってきている。
	変わらない	食料品製造業 (従業員)	受注価格や販売 価格の動き	・現状はあまり変わり映えない状況である。商品を動かすための特売が増えて利益が減少しているほか、全般的には安い商品しか動かなくなっている。
		出版・印刷・同 関連産業(情報 企画担当)	受注量や販売量 の動き	・前の四半期は受注量が前年比5~10%増であったが、この四半期は大きな伸びがみられない。秋に向けて順調な動きがみられるのは医療業界のみである。一方、弱電業界では依然として、輸出に関する販促関係が順調な動きとなっている。
		金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・鋼材の値上げが発表されているものの、需要には大きな落ち込みがみられない。
		金属製品製造業 (総務担当)	受注量や販売量 の動き	・例年どおり第1四半期の売上は低調であったが、受注は比較的堅調に推移している。
		一般機械器具製 造業(経営者)	受注価格や販売 価格の動き	・当社には鉄鋼関連の取引先が多いが、相変わらず投資意欲がおう盛である。この傾向が約2年間続いており、ここ数か月も良い状況となっている。
		電気機械器具製 造業(経営者)	それ以外	・電気機械を作っている大手企業は好調であるが、当社の外注先である水処理関係の業界はやや悪い状況である。
		電気機械器具製 造業(経営者)	取引先の様子	・一時的な動きではあるものの、今月に入ってから機械メーカーからの引き合い件数が減っている。
		電気機械器具製 造業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・最近では突発的な仕事の依頼が増えている。
		電気機械器具製 造業(宣伝担 当)	受注量や販売量 の動き	・堅調な動きが続いているAV関連商品に加え、暑い日が続いていることもあり、エアコンなどの夏物商品の荷動きも好調に推移している。
		その他製造業 [履物](団体 役員)	受注量や販売量 の動き	・輸入品との競合がさらに過熱している。
		建設業(経営 者)	受注価格や販売 価格の動き	・仕事量は増えつつあるものの、建設資材が高騰するなかで受注競争は相変わらず厳しい。
		金融業(営業担 当)	取引先の様子	・自動車部品製造やプラスチック成型などの製造業、スーパーなどの小売業の中小企業をみると、売上は横ばいであるものの減益となっている。
		金融業(支店 長)	取引先の様子	・家族で経営している洋服店では、大手の競合店に客を取られるなど、非常に厳しい状況にある。
		不動産業(経営 者)	取引先の様子	・交通アクセスの良い工場や倉庫用地に対する需要が依然としておう盛である。
	不動産業(営業 担当)	取引先の様子	・不動産業者による建売や分譲マンション用地の取得意欲は依然としておう盛であり、価格も上昇傾向にある。ただし、土地取得費用の上昇分を再販価格には転嫁しにくく、転嫁しようとするれば売行きが鈍る。	
	経営コンサル タ	受注量や販売量 の動き	・公的機関からの全体的な発注量の増加で、受注量が増えている。	

	その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	取引先の様子	・取引先では設備投資がほぼ終わり、見積依頼も少なくなってきた。	
やや悪くなっている	食料品製造業 (経理担当)	それ以外	・原材料が値上がりしているものの、製品に価格転嫁できない。売上が伸びず、利幅が縮小している。	
	繊維工業(団体職員)	受注量や販売量の動き	・依然として受注量が減少している。	
	繊維工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・取引先では夏物催事が増えて販売量も伸びる時期であるが、今年は追加注文がほとんどない。取引先ではこれまでの在庫分を販売している状況であるため、今後の商品の販売に不安が残る。	
	化学工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・5月の連休明けから急速に売上が落ち込んでいる。同業他社や得意先、仕入先に話を聞いても同じで、前年比で10%以上落ち込んでいる会社も珍しくない。	
	化学工業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・4、5月に堅調な動きとなった反動もあり、出荷量が前年を下回っている。	
	金属製品製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・連休明け以降、低水準の出荷状況が続いている。	
	一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・航空機部品の価格が下がっている。	
	輸送業(営業所長)	受注量や販売量の動き	・関西国際空港での輸入貨物の取扱量が落ち着いており、新規の荷物も少ない。	
	新聞販売店[広告](店主)	受注量や販売量の動き	・新規購読数は伸びているものの、折り込み広告の数が減少している。	
	広告代理店(営業担当)	受注量や販売量の動き	・伸びていたインターネット広告の動きが一段落している一方、紙媒体もかなり低迷している。	
悪くなっている				
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社(支店長)	求人数の動き	・今月に入って参議院選挙関係の求人が増加している。そのほか、営業系の人材に関する問い合わせが増えている。
		新聞社[求人広告](営業担当)	求職者数の動き	・タクシーやバス会社などの運転手の求人、応募が集まらなくなっている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・大阪の新規求人数は前年比1.9%増と前月の減少から再び増加に転じたほか、有効求人倍率の季節調整値も1.29倍と2か月連続で上昇している。
		学校[大学](就職担当)	周辺企業の様子	・4年生の就職活動もピークを過ぎたが、企業の採用意欲は依然として高く、学内で行うセミナーへの参加希望が多く寄せられている。
変わらない	人材派遣会社(経営者)	雇用形態の様子	・紹介予定派遣のほか、最初から正社員として採用する動きが加速している。企業からの紹介料についても、今までは値切られていたが、最近は見積どりの金額となっている。	
	人材派遣会社(社員)	周辺企業の様子	・過去3か月と差はないものの、業種や企業によって好不調の差が広がっている感がある。	
	求人情報誌製作会社(営業担当)	求人数の動き	・2月以降は求人数が減少傾向となっている。	
	新聞社[求人広告](担当者)	周辺企業の様子	・依然としてインターネット経由の求人に押されているものの、今月は全社的な大きな企画があるため、売上が伸びる。	
	新聞社[求人広告](担当者)	それ以外	・新聞広告の出稿状況を見ると、最近3か月は前年の8割程度で変化がない。	
	新聞社[求人広告](担当者)	周辺企業の様子	・インターネットを求人広告の中心にする企業が増えており、新聞の求人広告には厳しい状況が続いている。	
	新聞社[求人広告](営業担当)	周辺企業の様子	・新聞の求人広告は引き続き低迷しており、チラシ広告やインターネットへの移行が続いている。	
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数の減少がみられるものの、新規求人件数自体は増加している。これは主に、派遣、請負業からの1件当たり求人数の減少が原因であり、特に10人以上の大量求人が減少している。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は若干の変動があるものの、ほぼ横ばいで推移している。
	学校〔大学〕 （就職担当）	採用者数の動き	・採用活動は終盤を迎えているものの、企業の動きは依然として活発である。
やや悪くなっている	民間職業紹介機関（支社長）	求人数の動き	・関東や東海地域に比べて、関西の求人需要はやや弱含みである。
悪くなっている	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・建設関係の日雇求人数が前年比で20%程度の減少となっている。